

## 近代以前の通信 コーナー 近代郵便制度の誕生

今回は、現在の各国郵便制度の基となった近代郵便制度の誕生についてご紹介します。

18世紀に入り、ヨーロッパなどで国家の基礎が固まるに従い、郵便事業は国家で経営するようになりました。しかし、受取人払い制で料金が高く郵便料を払えない人がいる等、一般の人には利用しにくいものでした。

1840年に、イギリスで近代郵便制度が誕生しました。この制度を創案したのがローランド・ヒル（1795～1879年）です。ヒルは、当時の不便な郵便制度の改善を思い立ち、事業の構造を調査研究した結果、費用のうちの大部分が引受けと配達にかかっていることに気づきました。そこで、それまでの便せんの枚数と距離制による料金を全国均一の重量制とし、また受取人でなく差出人が料金を支払う料金前納制に変えるなど、合理化・単純化を図り、誰もが容易に利用できる低料金の郵便改革案を作りました。

ヒルの改革案は1840年から実施され、ここに初めて郵便切手が誕生し、ポストも作られるようになりました。その世界最初の切手は、ヴィクトリア女王の横顔を図柄とした1ペニー切手（ペニー・ブラック）と2ペンス切手（ペンス・ブルー）の2種類（1840年5月6日発行）です。この時、切手とともに料額印面付官製封筒（マルレディー封筒）も考案され、安い料金でポストを利用して手紙を出すことができました。世界各国でも、その結果を見てこの制度を取り入れるようになりました。ヒルはその功績により、「近代郵便の父」と言われています。



ローランド・ヒル

世界最初に発行された切手

外国切手より見た近代郵便



1ペンス切手  
（ペニー・ブラック）



2ペンス切手  
（ペンス・ブルー）



ペンス・ブルーとマルタ十字  
消印（切手再使用防止のため  
の最初の消印）



マルレディー封筒製作中のアトリエ  
（デザイン者の名前をとって  
「マルレディー封筒」と呼ばれる）



ロンドン最初のポスト  
（1855年）

## 学芸員雑記帳

## 「お年玉付郵便葉書の誕生」

今年も年賀状を書く季節となりました。お年玉付き郵便葉書が初めて発売されたのは昭和25年の年賀用として、昭和24年12月1日から発売が開始され、2円のお年玉付郵便葉書3,000万枚とそれに1円の寄附金をつけたもの1億5,000万枚が発行されました。

戦後の郵政事業は、戦争の被害が甚大で、復旧に莫大な資金を必要としましたが、郵便利用の低調もあって赤字に悩まされていました。その赤字克服策として年賀状の差し出しを積極的に勧奨することになりました。

くじ付き葉書は、京都に住む林正治氏によって考案されたものです。郵便葉書にくじ番号を付け、抽選によって当選者に「お年玉」として賞品を付与する。さらに寄附金1円を付加したのも発行しました。寄附金は社会事業に配分するという世界に例のない画期的な制度でした。当時のお年玉賞品の特等「ミシン」は、大半が月賦販売という高嶺の花でした。物のない時代で、賞品の評判も葉書の売行きも上々でした。（井上恵子）



昭和24年お年玉付郵便葉書  
周知用ポスター



初めてのお年玉付郵便葉書  
（昭和25年用）